

# R4年度 瑞穂小学校学校研究の概要

## 1 研究主題

対話を通して、自分の思いや考えを伝え合うみずほっ子を目指して  
～言語能力の向上を図る各教科の研究～

## 2 目指す児童像

自分の考えを明確にもち、考えたことを自分の言葉で伝え合う児童

## 3 研究仮説

目指す児童像の実現に向け、以下の仮説を打ち立てた。

ICT 機器を効果的に活用した授業を行い、input⇔output を意識して言語能力を高めることで、自分の考えを明確にもち、考えたことを自分の言葉で伝え合うことができる児童が育つであろう。

## 4 具体的な取り組み

### 🔗 Base of the study 日常の鍛え

- ・思考力や表現力を支える語彙力や算数の基礎を身に付ける。
- ・相手の話を聴き、相手から学ぼうとする姿勢を身に付ける。

【具体的な学習活動・指導法・手立て】

⇒漢字検定、新聞記事の読み解きワークシートの取組、基礎基本の定着

⇒QU を活用した学級づくり、QU と NRT とのクロス集計

### 🔗 input 自分の考えや思いを明確にもつ

- ・読み取った情報を吟味し、知識と関連付けながら、見方や考え方を獲得する。
- ・複数の資料の情報を関連させて考えたことや疑問に思ったことをノートやワークシートに整理する。

【具体的な学習活動・指導法・手立て】

⇒考えたくなる、表現したくなる課題の提示

⇒複数の資料を比較したり、関連付けたりするための「見方や考え方」(思考ツールなど)の指導

⇒キーワードの明確化、教科の用語を使うことの習慣化

### 🔗 input⇔output 自分の考えや思いを表現する

- ・接続詞を使いながら筋道立てて説明することができる。
- ・根拠を示しながら、自分の考えや思いを伝えることができる。

【具体的な学習活動・指導法・手立て】

⇒接続詞(そして、まず、次に、だから、例えば、つまり)の指導

⇒三角ロジック(自分の考え・理由・根拠)の指導

⇒対話トレーニング

## output 自分の言葉で伝え合う

- 自分の経験と重ねたり、例えを使ったりして、自分の考えや思いを説明することができる。(例えば～)
- 授業の中で学んだことや友達の考えを聞いて再考したことを、自分の言葉に言い換えてまとめることができる。(つまり～)
- 自分の学びをふり返り、伝え合うことができる。

### 【具体的な学習活動・指導法・手立て】

- ⇒自分の考えや思いを伝え合う場の設定（導入・山場での対話学習・ふり返り）。
- ⇒自分の言葉で語りたくなる教材の工夫（活用問題）。
- ⇒児童の考えを引き出す教師の発問（切り返し、深める）。

## Bring out ICT 機器の効果的な活用（GIGA スクール構想・HAKUIISM に則って）

- ICT 機器を活用して、拡大された挿絵や写真等から情報を取り出すことができる。
- ICT 機器を活用して、自分に合った進度で学習したり、深く調べたりする。
- ICT 機器を活用して、対話場面で自分の考えや思いを交流し、学びを深めることができる。

### 【具体的な学習活動・指導法・手立て】

- ⇒ホームポジションを意識して、タイピングする時間の確保（Base of the study）
- ⇒デジタル教科書、電子黒板等を活用した導入の工夫（input）
- ⇒全員の考えを表出する場の設定（input⇔output）
- ⇒自分の考えの深まりや変容のための交流の場の設定（output）
- ⇒タブレットPCなどを活用した対話やふり返りの場の設定（output）

## 5 研究の検証方法

- ①NRT・QU・学期末テスト・市学力テスト等の結果の分析
- ②学習に関する児童アンケートの分析
- ③T⇔each の分析（視点をもった相互授業参観）
- ④ST 分析での授業評価
- ⑤まなびいレポートの変容

## 6 研究組織

部会名		取組内容	メンバー
研究推進委員会		学校研究の総括	校長・教頭・研究主任（上杉） 教務主任（松本）・低（大山） ・中（前田）
授業力 向上	指導研究部会	指導法の研究・提案等	上杉・大山・前田
	GIGA スクール構想 HAKUIISM 推進部会	GIGA スクール構想の計画・ 実践・動画編集等	朝倉・藤澤・田中・辻口・上杉
集計・分析部会		学力調査の集計・分析・総括等 T⇔each 推進等	松本・上杉・藤澤・前田
検証部会		取組の検証・進捗状況の確認	藤澤・田中
学びの土台部会		①朝自習・ドリルタイム ②教室掲示・家庭学習	①松本・朝倉 ②辻口・石森

## 研究主題

対話を通して、自分の思いや考えを伝え合うみずほっ子を目指して  
～言語能力の向上を図る各教科の研究～

## 研究仮説

ICT機器を効果的に活用した授業を行い、input⇔outputを意識して言語能力を高めることで、自分の考えを明確にもち、考えたことを自分の言葉で伝え合うことができる児童が育つであろう。

# 深い学びの実現

## 目指す児童像

自分の考えを明確にもち、考えたことを自分の言葉で伝え合う児童

### ICT機器の活用

課題をもつ導入場面で

### ICT機器の活用

対話の場面で

## 思考力

自分の考えを  
もつ力の育成

## 表現力

自分の考えを  
表現する力の育成

言語能力を高める

## input

- ⇒考えたくなる、表現したくなる課題の提示。
- ⇒複数の資料を比較したり、関連付けたりするための「見方や考え方」(思考ツールなど)の指導。
- ⇒単元や本時で使いたい・使わせたいキーワードの明確化。教科の用語を使うことへの習慣化。

## output

- ⇒接続詞(そして、まず、次に、だから、例えば、つまり)の指導。
- ⇒三角ロジック(自分の考え・理由・根拠)の指導。
- ⇒対話のトレーニング。
- ⇒自分の考えや思いを伝え合う場の設定
- ⇒自分の言葉で語りたくなる教材の工夫(活用問題)
- ⇒児童の考えを引き出す教師の発問(切り返し、深める)

思考力や表現力を支える

語彙力、学びの基礎・基本